

CHANNELFLY®

チャンネルフライ

利点

- ライブチャンネルアクティビティを分析し、最もスループットが得られるチャンネルを決定する
- RUCKUS® のスループットを最適化するチャンネル選択の自動化
- BeamFlex® との組み合わせで、最も要求の厳しい設備のルールをサポートします
- 隣接APが少なく、干渉の少ないチャンネルを選択することで容量を最大化する
- チャンネル変更のタイミングを制限する権限をITチームに与える

RFチャンネルの自動選択と干渉緩和

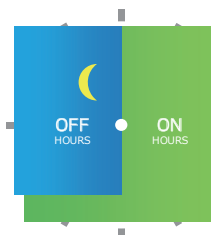
SmartZone™の制御・管理アーキテクチャの機能であるChannelFly®は、Wi-FiとWi-Fi以外のソースからの干渉を最小限に抑えるための無線チャンネル設計を自動化します。チャンネルのアクティビティを分析し、専用のアルゴリズムを使って過去の値に基づいて最適なチャンネルを選択します。RUCKUS BeamFlexアダプティブアンテナ技術との組み合わせにより、ChannelFlyは最も要求の厳しい企業環境においてスループットを最大化します。近隣のAPの数と各チャンネルの過去の容量に基づいて、RFチャンネルの選択を最適化します。

ChannelFlyは、すべてのRUCKUSアクセスポイントに統合されています。常にRF環境を監視し、各チャンネルにおけるデバイスと干渉の履歴を追跡します。ChannelFlyは、802.11hプロトコルを使用して、アクティブなクライアントに必要なチャンネル変更を通知します。これにより、クライアントとAPが1つのチャンネルから別のチャンネルにスムーズに移行できるようになります。

適切なチャンネル選択はRFの健全性のために重要ですが、過度のチャンネル変更はユーザーのためのエクスペリエンスを阻害する可能性があります。802.11hプロトコルは、クライアントで一貫して実装されていないため、相互運用性の問題が発生する可能性があります。自動チャンネル選択アルゴリズムは、最良のチャンネルを求めると、クライアントの体験を混乱させる可能性のある過度のチャンネル変更を防止することのバランスをとる必要があります。ChannelFlyでは、IT管理者がワイヤレスの使用量が少ない夜中など、チャンネルの変更を許可するタイミングを指定することができます。また、干渉や容量の減少に対するChannelFlyの反応も設定することができます。チャンネルを変更する度に、チャンネルを変更するメリットとクライアントへの潜在的な影響を比較検討し、ユーザーエクスペリエンスへの影響を最小限に抑えることが出来ます。



企業内オフィス環境で
ChannelFlyが作成した
チャンネル設計例(20MHz)



ネットワークはサービス中です。管理者はチャンネル変更を遅らせることができます。